



三菱化学株式会社

人事部 労制グループ
グループマネジャー

後藤 啓さん(左) 宮本 将志さん(右)

企業プロフィール

- 事業内容：機能商品、ヘルスケア、素材他
- 従業員数：6,013名(2011年9月30日現在)
- URL：<http://www.m-kagaku.co.jp>

ボランティアをきっかけに 社会貢献の意識を育てる

実践!

こうすればできる!こうすればのびる!

- ① 社員の自発的な意志を尊重
- ② ハードルを下げ参加しやすくする
- ③ 企業文化として積極的に推進する

ボランティア休暇

会社側で基本的なアレンジ

東日本大震災が発生したときは、社内で支援のためのボランティアを募りました。ボランティア休暇制度を活用した社員による自主的な被災地支援です。CSR(企業の社会的責任)の観点から、当社の掲げる経営指標に含まれる、社会貢献を具現化した形です。今回のような事態を目の当たりにすると、「何か支援をしたい」という気持ちが起きる人も多いでしょう。しかし個人で支援に行くのは不安もあり、初めての人にはハードルが高いと思います。そのため活動場所の選定、交通手段等の手配など、現地で活動しているNPOと連携を取りながら、ある程度会社が準備、計画を策定しました。2泊3日で被災地に行き、NPOの方々とともに3日間の活動に取り組みます。1チーム最大8人で編成し、これまでに136名の社員が参加しました。



年次有給休暇の積立制度を活用

被災地支援という意味では、このボランティア休暇を5日までと決めているのですが、それを超えるケースが出た場合に、年次有給休暇積立制度を利用できるようになっています。使用されなかった年次有給休暇のうち、失効してしまう部分を最大40日まで積立できる制度で、ボランティア休暇以外にも本人の私傷病、家族の看護などにも活用できます。ボランティア休暇は年5日間という制限があるため、これから個人的に2回目、3回目の被災地支援に行かれる人たちの中には、この制度を使う人も出てくると思います。



高原 寿人さん

(ボランティア休暇)

初めてのボランティア

被災地支援活動を行っているNPOを通じ、岩手県陸前高田市でボランティアを行いました。報道等で被災地の状況は見ていましたが、市街地の中心から360度どこを見回してもがれきの山という状況に改めて震災の被害の大きさを実感しました。従事した活動は、支援物資の衣料品の仕分けと配布です。衣料品を、家庭毎に事前にアンケートで確認した結果に基づいて仕分け、仮設住宅に住む方々に配布をしました。年配の方が多いことや、周囲の店舗は大きな被害を受けていることから生活にかなり苦労している様子であり、衣料品を届けると感謝の

言葉をいただき、ボランティアに参加し、被災者の方々のお役に立ててよかったと感じました。現地では、支援物資は届くのですが、実際に最前線で配る人の手が足りないという状況でした。

仮設住宅に移り、当面は落ち着いた生活ができているものの、今後の不安を抱えており、報道では見えない、現地の実状を理解する貴重な体験でした。

会社が支援内容や交通手段等を用意していたので参加しやすかった

被災地支援といっても、どこに行ったらいいのか、どこに宿泊したらいいのかわからない中で、会社がボランティア先を設定し、交通手段等を手配してくれたのは大変有り難かったです。また会社では仕事だけのつながりだった人たちと、同じ思いを持って同じところに行き、同じ部屋で布団を敷いて寝るという合宿のような経験をしたことで、仲間と深いコミュニケーションを得るよい機会になりました。

社内報で体験談を紹介

ボランティア休暇制度を活用した社員による自主的な被災地支援を始めた今年の7月の当初は出足が鈍かったのですが、月を追うごとに参加者が増えていきました。社内報でも大々的に、ボランティア活動でこんなことがあったとか、現地の状況はこうだったなど体験談を紹介してPRしたのも効果があったように思います。また、実際に会社からの派遣となると、同じ部署から何人も参加すると業務に支障がでてしまうので、部署内に希望者が複数いる場合は部署内での人選と業務の調整を行い、いろいろな部署から1人2人と参加することになります。そうすると、ボランティア活動を通じて普段出会う機会のない初対面の社員同士に一体感が生まれ、社員間のコミュニケーションの活性化にもつながりました。

ライフサポート休暇

このライフサポート休暇は、心身のリフレッ

シュや仕事と生活の調和等を目的に制度導入したものです。連続休暇を取得するように制度化したものであり年次有給休暇を年1回2日以上連続して取得する際に、おまけとして1日付与されます。なお、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳の社員はおまけとして年間3日付与されます。節目ごとに休むだけではなく、毎年休んでもらっていいのでは?という思いがベースになっています。3日休むと土日を含めれば5連休。節目のときは9連休になるので、海外旅行にも行けます。この休暇の取得率は現在約70%ですが、ライフサポート休暇のさらなる取得促進のために、年度始めの4月に、各部署に働きかけ、社員の皆さんに予定を立ててもらい、計画的に取得してもらっています。

ボランティア休暇、ライフサポート休暇など制度があっても活用されないのでは意味がないと考え、社内イントラネットに人事制度関連のガイドブックをいつでも閲覧できるように掲載、「社内報」を活用して社員の皆さんにPRしたりなど様々な取り組みも進めています。